

# モニタリングサイト 1000 ガンカモ類調査

2017/18年 ニュースレター

## 2017/18 年度調査の概要

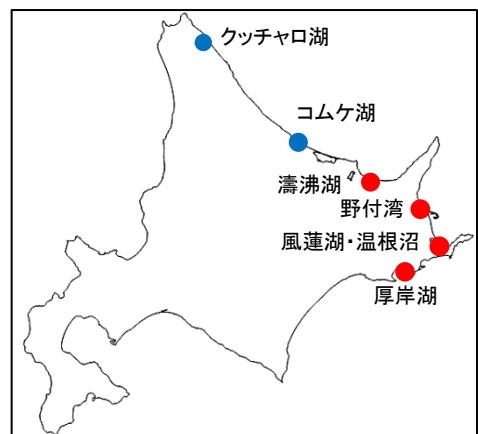
2017/18 年度調査は 81 サイト中 80 サイトで実施され、最も飛来個体数の多いサイトは八郎潟（秋田県）で、202,000 羽が確認されました。次いで蕪栗沼（宮城県）で 122,031 羽、小友沼（秋田県）で 110,400 羽が確認されました。

主な環境省レッドリスト種の最大個体数は、シジュウカラガン（絶滅危惧 I A 類）が八郎潟で 3,280 羽記録されたほか、ハクガン（I A 類）が八郎潟で 448 羽、カリガネ（I B 類）が福島潟（新潟県）で 7 羽、コクガン（II 類）が野付湾（北海道）で 3,930 羽、亜種ヒシクイ（II 類）が野付湾で 3,000 羽、トモエガモ（II 類）が斐伊川河口（島根県）で 3,000 羽、マガン（準絶滅危惧）が八郎潟で 202,000 羽、亜種オオヒシクイ（準絶滅危惧）が八郎潟で 9,180 羽が記録されました。

## モニタリングサイト 1000 ガンカモ類調査から見てきたこと

### ○北海道でオオハクチョウの行動が変化している？

オオハクチョウは毎年 10 月になると、ロシアにある繁殖地から越冬のために日本に渡ってきます。秋はロシアから北海道の東側を通過して日本の越冬地に向かい、春の北上時期にも多くのオオハクチョウが北海道の東側を経てロシアへ渡っていました。ところが最近、春と秋に北海道のより北側のサイトで記録されるオオハクチョウが増えてきました。オオハクチョウに何が起こっているのでしょうか？

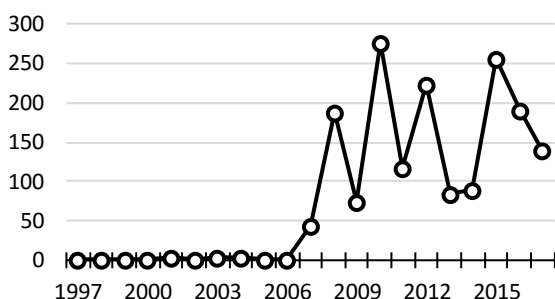


### ○増えたサイト、減ったサイト

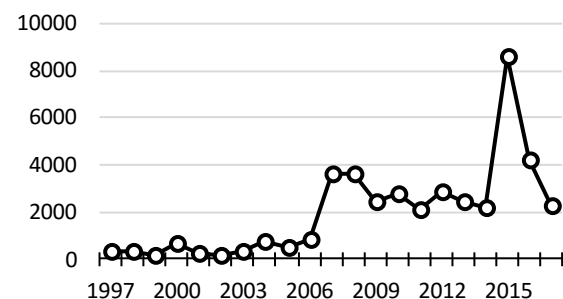
下のグラフは北海道の北側と東側のサイトで記録されたオオハクチョウの数の変化です（春と秋の最大個体数の合計値）。2000 年台後半から北側のサイトで数が増え、東側のサイトで数が減っている傾向が見られます。なお 2004 年のモニタリングサイト 1000 開始より前の記録もサイトの調査員の皆さんからご提供いただいて分析に使用しました。風蓮湖・温根沼は根室市による調査記録を使用しています。

#### オオハクチョウが増加傾向にあるサイト

クッチャロ湖

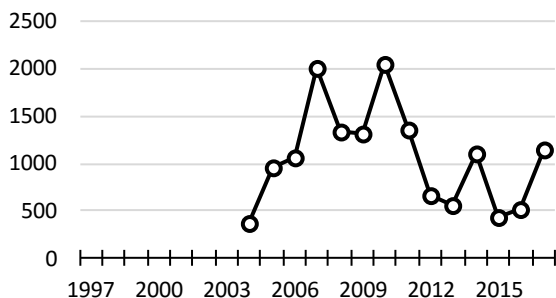


コムケ湖

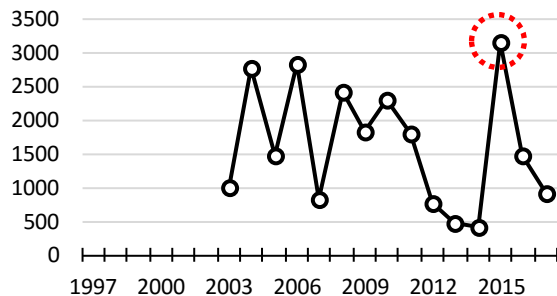


## オオハクチョウが減少傾向にあるサイト

濤沸湖

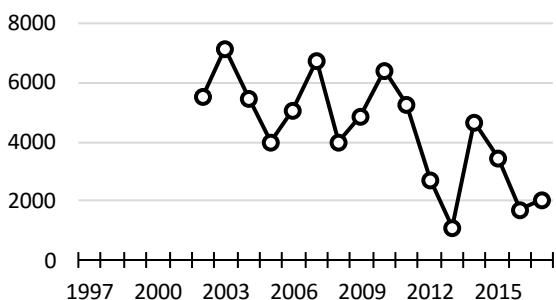


野付湾

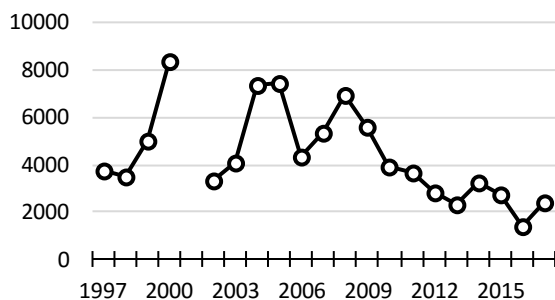


2016年4月に普段見られない大群が記録されたが、全般的には減少傾向だと考えられる。

風連湖・温根沼



厚岸湖



## ○北海道の北側でオオハクチョウが増加している原因は？

調査をしてくださっている皆さんに、北海道の北側のサイトでオオハクチョウが増えてきた理由を尋ねてみました。現時点では仮説ですが、次のような原因が考えられそうです。

### 仮説1 気候の温暖化で湖が凍結する時期が遅くなった

コムケ湖では水面が凍結する時期が遅くなってきています。凍らない水面があるうちはオオハクチョウが留まるため、以前は渡り途中で短期間滞在するだけだったのが、長期間滞在するようになってきているそうです。他の北側の地域にある湖沼でも結氷時期が遅くなってきています。



デントコーン畑にいるオオハクチョウ(藤井薫)

### 仮説2 デントコーンを食べる習性が身についた

オオハクチョウは湿地や浅い海域で水生植物を食べていましたが、近ごろは夜が明けると水面から飛び出していきます。彼らの行き先を確実に追うことはできませんが、最近、家畜の飼料として栽培されているデントコーン(トウモロコシの一種)の刈り入れ後の畑で、こぼれ落ちたコーンを拾って食べる姿が頻繁に見られるようになりました。

### 仮説3 オオハクチョウへの給餌がなくなった

観光名所や地元の人たちの楽しみとして、オオハクチョウのための給餌場を作ることが各地で行われていました。しかし、野付湾のそばの尾岱沼の給餌場では 2000 年台になって給餌量を減らし、2013/14 年から給餌がなくなったことにより、多いときは 1 万羽ほどのオオハクチョウが集まっていたのが、ほとんどいなくなりました。濤沸湖でも 2010/11 年の冬から給餌を止めており、かなり数が減少しています。これらの場所で餌をもらえなくなったオオハクチョウが、新しい餌場を求めて北側へ移動した可能性が考えられます。

### ○北海道の東側でオオハクチョウは減っていない？

調査結果では北海道東側のサイトで数が減っていますが、前述のように昼間にデントコーン畑に採食に行く習性になったことで調査時に湖沼にいる数が少ないだけで、夜間はもっとたくさんのオオハクチョウがいるのかもしれませんが。個体数変化は北側で増加、東側で減少と逆向きですが、いずれも 2000 年台後半から変化が現れているので、オオハクチョウが 2000 年代後半に「デントコーンを発見した」ことが原因でこうした変化が起きたのかもしれませんが。

## 第 3 期とりまとめ報告書作成中！

モニタリングサイト 1000 ガンカモ類調査は平成 15 年度から調査を開始し、平成 30 年度で 16 年目を迎えました。今年度は 5 年ごとの調査結果とりまとめの年にあたり、現在 3 回目のとりまとめを行っています。

今回のとりまとめでは、各サイトや全国で増減が見られた種の解析を行うほか、ドローンを使ってガンカモ類を撮影・調査した結果などを整理する予定です。

とりまとめ報告書は平成 31 年度中に公開を予定しておりますのでご期待ください！



ドローンで撮影したコハクチョウの群れ(新潟県 佐潟)

モニタリングサイト 1000 ガンカモ類調査 2017/18 ニュースレター 2019 年 3 月発行

発行：環境省生物多様性センター

編集：特定非営利活動法人バードリサーチ

HP：<http://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html>

タイトル写真（幌岡大沼のシジュウカラガンとハクガン：バードリサーチ）

